

三井のリフォーム住生活研究所 西田 恭子

二軒目の家

近年の世帯数より住宅数
が上回っている時代には、
実家や空き家などで家を二
軒所有している人も多い。

だが、貯蓄率が高いとい
われている高齢者世帯で
も、今まで家を二軒持つな
んて考えもしない。あるい
はチャンスがなかった方に
は、新たに二軒持つことに
は抵抗感があるようだ。

まず、別荘暮らしをイメ
ージして心ときめかせたご
主人様に、すぐに奥様は「誰
が管理するの?！」となる。
「どこに行っても家事を強
いられ、おまけに二軒分の
掃除をするなんて考えられ
ない!」と、にべもなく反
対される。

また、「年々フットワー
クが悪くなるし、ましてや
おんなじ所にレジャーに行
くなんて、家を使わなくな
るに決まっているわ」と続
く。

二番目の家を、レジャー
と考えるか居住する拠点と
するかで考え方は別なのだ
が、日常から離れたと思
っているからか、「出かけ
てまで食事を作るなんて意
味がない」と、この一点だ
けでも駄目だと決めつけら
れるようだ。

私は、噛み合わない議論
を避けるために、ご夫婦と
しての会話はここで終止符
が打たれる場面に何度も出
会った。

その次の手段として、会
員型リゾートマンションの
チラシが気になり、格安の
体験宿泊を試みたりする
のだが、決めてとなる夫婦
の合意が得られず、なか
か前には進まないようだ。

二軒目の住宅をレジャー
のためと思うのか、新たな
不動産の所有と考えるのか
で全く違う。この違うこと
を、一緒に話し合うか
ら結論は出ようがない。

レジャーなら楽であるこ
とは絶対だし、消費として
なくなっても仕方がない。
不動産所得なら採算ベース
としてどうなのかが焦点と
なる。

地球温暖化が進み、この
まま都市部で生涯暮らし続
けられるだろうか? と夏
を迎えると真剣に考えてい
る方もいるのではないだろ
うか。これは一種の疎開で
ある。

昔、資産家は別荘を持ち、
奥様方はお手伝いさんを従
えて避暑地で夏を過ごすこ
と、一般庶民とは別の世

界があったようだが、そん
な優雅なイメージではな
く、本格的な暑さを迎えて、
本気で涼しい所へ避難した
くなっている。

この場合は、資産投資を
家にするのだが、消費型で
あつては困ると考える。そ
んな中、別荘といつても期
間限定の賃別荘にするとい
う手段を絡めて考える方も
でてきた。

先日、学会発表の勉強会
があり、メンバーの一人が
持っている会員型リゾート
マンションで行われた。

広い敷地に高原植物や
木々がきれいに手入れさ
れ、掃除のいき届いた室内
で、皆が議論を重ねた。論
文の取りまとめははかど
り、仕事が終わると温泉に
入り、快適に過ごさせてい
ただいた。

資産の移行にはならない
ものの、これが奥様方が望
む楽な快適さなのかと実感
した。実際には朝食のパン
につけるオリブオイルや
チーズ、コーヒーにハーブ
ティーなど、すべて奥様の
心づくしの数々が持ち込ま
れての快適さでもあったの
だが……。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフ
ォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献す
る「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。
新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日
本女子大学非常勤講師。日本建築家協会正会員。